

【月案】5月・1歳児

今月の保育のポイント

- ゴールデンウィーク明けに期待をして登園する子、不安から泣く子がいるので、期待する気持ち、不安な気持ちを受け止め、好きなものを探しに行くなどして気持ちを切り替えながら安定するように保育する。
- 家庭でのリズムを受け止めながら、園での生活に徐々に慣れていくように、できるだけ同じ保育者が寄り添って子ども理解の上でゆったり関わる。
- 興味をもって動き、握って感触を楽しんだり、手指を使って操作できる素材を用意しておく。
- 戸外で心と身体を動かして遊べるよう、たっぷりと時間を保障し、ボールなどの用意を整えておく。
- 食事や着替えの時間を早めに設定し、手伝ってほしいところ、自分でやりたいところ子どもの力に合わせて援助していく。

月のねらい

- 安定した生活リズムの中で、安心して過ごす。
- 保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。
- 戸外遊びも喜び、様々なものに興味をもって触れたり遊んでみたりしようとする。
- 保育者に見守られながら探索行動を楽しむ。
- 一人ひとりの思いを行動や表情から受け止め、安定して過ごせるようにする。
- 衣服調節や水分補給を行いながら健康に過ごせるようにする。
- 保育者と一緒に全身を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 保育者や友達と触れ合う楽しさを感じる。

週のねらい

その1

- 1週目：生活リズムを整え、機嫌よく過ごす（養護）
- 2週目：スキンシップを喜び、保育者との関わりを喜ぶ（教育）
- 3週目：戸外で花や砂、葉っぱなどの自然に興味を持つ（教育）
- 4週目：保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ（教育）

その2

- 1週目：連休明けの不安感や体調の変化に寄り添ってもらい、無理なくゆったりと活動する（養護）
- 2週目：戸外で保育者や友達と遊び機嫌よく過ごす（教育）
- 3週目：保育者に見守られながら好きな遊びなどを楽しむ（教育）
- 4週目：園生活や環境に慣れて、自分の気持ちを受け止めてもらうことで安心して過ごせるようにする（養護）

その3

- 1週目：保育者や友達と一緒にこどもの日の会に参加する（教育）
- 2週目：積極的に玩具や遊具に関わり、遊ぶことを楽しむ（教育）
- 3週目：歩く、走る、投げる、くぐる等全身を使って遊ぶことを楽しむ（教育）
- 4週目：戸外に出ることを喜び、保育者と一緒に身支度をする（養護）

その4

- 1週目: 安心した気持ちで保育者や友達と生活をする(養護)
- 2週目: 表情や身振り、言葉等で自分の気持ちを表現する(教育)
- 3週目: 音楽や歌に合わせて声を出したり全身を動かすことを楽しむ(教育)
- 4週目: 気温や遊びの様子を把握し、衣服調節や水分補給を行う(養護)

前月末の子どもの姿

養護(生活)

- 入園当初は1日泣いて過ごすことが多かった子も、少しずつ慣れてきて機嫌よく過ごす時間が増えてきている。
- 食事の際には手づかみで食べ進めてしまうことも多いが、スプーンを持って食べようとする姿も見られる。
- 「ありがとう」や「ごめんね」、「いただきます」など仕草で示す姿があり、言葉を覚えてきている様子が見られる。
- トイレを嫌がり、誘われてもなかなか行こうとしない子どももいる。
- 長い時間寝られなかった子どもも、安心して一定時間眠ることができるようになってきた。
- 保育者を親しむ気持ちが芽生え、抱っこを求めたり膝の上に座って遊ぶ姿が見られる。
- 保育者を独占したい気持ちが高まり、一対一で触れ合うことを求める。
- 食事では食べ慣れない料理や味に、一度は口に入れても出してしまったり、食べることを嫌がることもある。
- 新しい生活による疲れが見られ、食事中に眠くなってしまうたり、体調を崩す子もいた。
- 安定した歩行ができる子、歩行し始めたばかりの子等、運動発達に差がある。

教育(遊び)

- 戸外に出る際には喜び、自分から靴を指差したり出そうとしたりする姿が見られる。
- 保育者に呼ばれると笑ったり手をあげたりし、関わりを楽しんでいる。
- 滑り台やブランコなどに興味を持ち、乗ってみようとする子どももいれば、怖くて泣いてしまう子どももいる。
- リズム遊びの際には身体を揺らして楽しんでいる姿が見られる。
- 伝い歩きや歩いたりできるが、保育者に抱っこを求めることも多い。
- 絵本や手遊びは繰り返し楽しんでいる。
- 興味がある玩具や好きな玩具で遊ぼうとする。
- 友達の玩具に興味を持ち、思わず取ってしまう。取られたことに気づき泣く子、そのまま遊び続ける子がいる。
- 友達に興味を示し、名前を呼ぼうとしたり、触れようとする。
- 砂の感触を楽しみ、集中して遊んでいる。
- 春の草花や虫等に興味を持ち見つめる。積極的に触れようとする子、一定の距離を保ち、近すぎると泣く子がいる。
- クレヨンでなぐり描きを楽しんでいる。クレヨンを口に入れそうになることがある。

活動内容(五領域対応)／環境構成と援助

養護(生活)

- 活:スプーンを使い、時には手づかみでも意欲的に自分で食べ進めようとする。(健康)
環:手づかみで食べる子どもも多いため、手洗いや布巾でよく手を拭くなど衛生面に気を付ける。必要に応じてスプーンを使うよう勧めるが、無理強いにならないように気を付ける。
- 活:誘われるとトイレに行き、おまるに座ってみようとする。(健康)
環:トイレを嫌がる子どもは無理に誘わず、タイミングを見て気分が乗りそうな時に声をかけていく。トイレに向かえた際にはその姿を認め、少しずつ意欲が湧くようにする。
- 活:保育者に見守られながら一定時間安心して眠る。(健康)
環:穏やかな雰囲気の中で安心して眠れるよう近くで見守ったりスキンシップをとるなど、一人ひとりの様子に合わせて援助を行う。
- 活:衣類の着脱に興味を持ち、自分でズボンや服を脱ごうとする。(健康)
環:衣類の着脱の際には前後などは間違えやすいため、子どもがやってみようとする意欲を落とさないように援助する。また、自分のではない棚から服を出したり片付けたりしていないか、注意して見守る。
- 活:食物をひと口適量を取り、十分に咀嚼して食べる。(健康)
環:ご飯などのひと口の分量が取りにくいものは特に、適量サイズに器の中で分けておき、子どもが食べやすい形にする。詰め込もうとする子には別途取り皿を用意し、ひと口の分量を都度入れるようにする。
- 活:エプロンやタオルの片づけを保育者と一緒にやってみようとする。(健康)
環:子どもが自分で用意ができるよう、見える位置にエプロンやタオルを置いておき、実物を見ながら「すごいね自分でできるの?」と声をかけ、片付ける場所で袋を用意しておき「ここだよ」と子どもが自分で動ける環境を都度作る。
- 活:自分の甘えたい気持ちや要求を表現し、保育者に受け入れられ安心して過ごす。(健康・人間関係)
環:子どもの泣き、拒否、動かないなどの様々な形を受け止め、スキンシップをとりながら安心感を得られるように援助を行う。
- 活:保育者に親しみ、触れ合いを喜び安定して過ごす。(健康・人間関係)
環:一対一で触れ合う中で「可愛いね」「大好きだよ」と伝え、喜びや心の安定に繋げていく。
- 活:保育者と一緒に生活に必要な挨拶を言葉や身振りで行う。(健康・言葉)
環:「朝のご挨拶するよ」「いただきますしようね」等と必要な挨拶を伝えていく。又、一緒に身振りを添えて挨拶することで、一人ひとりが挨拶しようとする気持ちへ繋げる。
- 活:園での生活リズムが少しずつ分かるようになる。(健康)
環:生活の流れや食事、おむつ替え、睡眠の場所を日々同じにすることで理解に繋げていく。
- 活:戸外から帰ってきた時や食事の前は保育者と一緒に手を洗う。(健康)
環:側について、水の出し方や出す量、石鹸の出し方、手洗いの手順について丁寧に知らせて、手洗いの定着や清潔にする心地よさに繋げる。
- 活:自分の椅子やロッカーの場所が分かり、座ろうとしたり、オムツを出したりする。(健康・環境)
環:個人のマークを椅子やロッカーに貼っておき、自分で行動しようとする姿を大いに認めて喜びに繋げる。様子に応じて「○○マークがある所に座ろうね」と知らせ、自分のマークや場所を認識出来るようにする。
- 活:保育者と一緒に衣服を交換したり、水分補給をしながら健康に過ごす。(健康)
環:「暑いから着替えようね」「たくさん動いたからお水飲もう」と理由を添えて伝え、一緒に着替えをしたり、水分補給をしながら心地よさを感じられるようにする。
- 活:オムツ交換をし、清潔になる心地よさを感じる。(健康)
環:遊びたい気持ちからオムツ交換を嫌がる時は、「玩具さんに待っててもらおう」「○○くんのオムツ

どっちな？」と気持ちが切り替わるような言葉かけをする。又、気持ち良さを感じられるよう働きかける。

教育(遊び)

- 活: 戸外で自然に興味を持ち、花や砂などに触れてみようとする。(環境)
環: 戸外に出る際には安全面に十分配慮しながらも、子どもが自然のものに気づけるよう、保育者が積極的に発見を楽しみ子どもに伝えるようにする。
- 活: 好きな遊びを保育者と一緒に楽しむ。(人間関係)
環: 玩具を舐めてしまうこともあるため、定期的に玩具の消毒を必ず行う。
- 活: 保育者や友達と手遊びやふれあい遊びを楽しむ。(人間関係・表現)
環: 保育者だけでなく友達とも一緒に関わる機会が持てるように活動を考える。友達の様子に興味を持ち、関わってみようとする気持ちが湧くよう援助していく。無理に友達と関わりを持とうとはせず、一人で遊びに夢中になっていればそっと見守るなど、時々に応じて誘っていく。
- 活: 簡単な言葉のやり取りを楽しみ、「マンマ」「ニャンニャン」など単語を言おうとする。(言葉)
環: 絵本を選ぶ際には、子どもが真似しやすい言葉が出てくるものを選び、発語を真似して楽しめるようにする。また、「どうぞ」「いいよ」など簡単な言葉のやりとりを楽しめるよう、工夫する。
- 活: 泣いたり笑ったりするなど態度で感情を示し、保育者に伝えようとする。(人間関係・表現)
環: 楽しいことも悲しいことも気持ちを受け止め、子どもが保育者に安心して気持ちを表現できるようにする。
- 活: 周りの友達や物などの実物と、言葉、名前を結びつける。(言葉)
環: 子どもが発する指さしや言葉に「そう、これはワンワンだね」と、言葉と実物が結びつけられるように丁寧に言葉をかける。
- 活: 歩く、走るなどを通してのびのびと戸外で身体を動かして遊ぶ。(健康)
環: 戸外では子どもの活発な遊びに参加しつつも、衛生的に汚いと思われるものや、尖っていて危険な物などを口にいけないように見守る。危険な行為をしていた場合は「これは危ないからね」と子どもの危険回避経験になるよう援助を行う。
- 活: 遊びの中で「こうしたらこうなった」と少しずつ見通しをもつ。(環境・表現)
環: 高低差のある場所で筒を使ってボールが転がるような遊びをつくったり、自由遊びの中でもさりげなく要因を作っておく。子どもが繰り返し遊んでいる時は「～したら～になったね」等、一緒に共感していき楽しむ。
- 活: 好きな場所で好きな遊びをじっくりと楽しむ。(健康・環境)
環: 一人ひとりの好きな遊びや興味関心を把握し、一人遊びに集中できる空間作りをすることで遊びの満足感に繋がったり集中力を育てていく。
- 活: 友達に対する興味を受け止めてもらい、保育者の仲立ちのもと関わることを楽しむ。(人間関係)
環: 友達の名前を教えたり、「そっとナデナデしてね」と関わり方を知らせながら、友達への興味関心を大切に関わる。又、保育者が仲立ちとなり、友達と同じ遊びをする喜びに繋げる。
- 活: 季節の歌や絵本を通して春の季節に興味を持つ。(環境)
環: 保育者が明るい声色で歌をうたったり、はっきりとした言葉で絵本の読み聞かせを行いながら興味に繋げていく。又、実際に春の自然に触れる中で、歌や絵本と結び付けていく。
- 活: 手遊びや体操等で体を動かして遊ぶことを楽しむ。(健康・表現)
環: 保育者が大きく手足を動かして興味や一緒に体を動かしてみたいという気持ちに繋げ、楽しさに共感する。
- 活: シール遊びや積み木等指先を使った遊びを楽しむ。(健康・表現)
環: 舐めたり口に入れようとする子もいるため、大きさに留意しながら用意をする。その都度遊び方を伝えて、手先を使った遊びの楽しさを感じられるようにする。
- 活: 保育者に手を支えてもらいながら歩いたり、呼びかけに反応し保育者のもとまで歩こうとする。(健康)

環：一人ひとりの運動発達を把握して援助し、“歩いてみたい”“歩くことが楽しい”という気持ちを育てる。

- 活：滑り台やマット・巧技台遊びに興味を持ち、積極的に関わって遊ぼうとする。（健康・環境）
環：保育者が遊び方を示して興味に繋げる。安全面に留意して側で見守ったり体を支えながら体を動かす楽しさに繋げる。
- 活：色に興味を持ち、色の違いが分かるようになる。（環境）
環：「赤いブロックだね」「イチゴ赤いね」「タンポポ黄色いね」等、普段から色を認識できる言葉かけをしていく。

健康、安全面で配慮すべき事項

- 連休明けには疲れが出やすく、体調を崩してしまう子どもも増える。ゆったりと過ごせる時間を設けることで、無理なく安心して過ごせるようにする。
- 戸外遊びは月齢に応じて少人数で行い、安全に気をつけて遊べるようにする。
- 安定して歩くのが難しい子どもがいる場合には、柵や机などを片付け、転んだ時に危険のないような環境を常に整える。
- 担任間で一人ひとりの食事や睡眠、遊びの様子を共有し、援助方法を話し合いながら心地よく過ごせる環境作りをする。
- 気温や湿度が高くなることが予想されるため、室内の環境を整えたり衣服調節を行う。
- 爪の長さを定期的に確認しながら自分や友達を傷つけてしまわないようにする。

今月の製作・歌・絵本・手遊び・室内室外遊び

製作

- 手形でカーネーション／はるいろ風車／変化が楽しいこいのぼり製作

歌

- ありさんのおはなし／てんとうむしのたび／こいのぼり

絵本

- があちゃん／どうぶつのおやこ／おはよう

手遊び

- ちょちょちあわわ／つくしんぼ／おべんとうばこのうた

室内室外遊び

- ダンボールに乗ってくぐって被って／サーキット遊び／シャボン玉を追いかけて

行事

- 憲法記念日(5月3日)
- みどりの日(5月4日)

- こどもの日(5月5日)
- 愛鳥週間(5月10日～16日)
- 母の日(5月第2日曜日)
- 身体測定
- 健康診断
- 避難訓練
- 誕生日会
- クラス懇親会

食育

- スプーンを使って食べようしたり、手づかみでも自分で意欲的に食べる。
- ゆったりとした雰囲気の中で食事することを楽しむ。
- 保育者の励ましで、食べ慣れない料理も食べてみようとする。
- 保育者や友達と一緒に食事することを楽しむ。

異年齢保育

- 年上の友だちへの不安や照れを受け止め、やり取りする楽しさを味わえるように仲立ちする。
- 砂遊びで友だちのまねをしてスコップを使う姿を見逃さず、さりげなく援助し、手首の発達を促す。
- 友だちの持つ玩具への興味に寄り添い、好奇心を満たせるよう、同じ玩具を用意して一緒に遊ぶ。
- 友だちの玩具を取ろうとするときは、さりげなく間に入り、言葉やしぐさで思いを伝える援助を行う。
- 食事の場面で、年上の友だちに刺激を受けて食具を持つ姿を見逃さずに認め、意欲を育てる。

職員間の連携

- 個々の発達に合った遊びを落ち着いて楽しめるよう、少人数で過ごせる環境作りの工夫を話し合う。
- 一人ひとりに合った入眠の関わり方を共有し、どの職員でも援助しやすいようにする。
- 戸外へ出る前の着脱援助をしやすくするため、子どもを誘う順番や職員の動きを決めておく。
- 主活動の案を複数用意し、その日の子どもの様子に合わせて柔軟に対応できるようにする。
- 懇談会の内容を担任間で話し合い、役割分担をしながら当日の資料作成などの事前準備を行う。

地域と家庭との連携

- 連絡帳などを使用し、子ども一人ひとりの様子を家庭と丁寧によりとりし、信頼関係を深める。
- 連休明けには生活リズムが整わず、泣いて登園することもある。子どもが疲れている時にはお家でゆっくり過ごすなどサポートをお願いする。
- 新しい持ち物や準備していただいたものには記名するよう、改めてお願いをする。
- 天候の変化により気温差が出る時期であるため、体温調節がしやすい服装を呼びかける。
- 保育参観など園の行事は余裕を持って伝え、協力してもらえようをお願いする。
- 連休中の家庭での様子や体調を共有する。園での様子を丁寧に伝えていく。
- 食事や睡眠、遊び等成長している点を伝え、一緒に成長を喜び合う。
- クラス懇親会では、子どもの園での様子を見てもらったり、保護者同士で交流できるよう働きかける。
- 歩行し始めた子もいるため、足のサイズに合った歩きやすい靴の用意をお願いする。
- 積極的に地域の方に挨拶をする。

長時間保育の配慮

- 普段は関わりが少ない相手とも安心して交流できるよう、側で見守ったり、仲立ちする。
- お迎えまで安心して過ごせるように、好きな絵本や玩具と一緒に楽しみながらゆったりと関わる。
- 快適に過ごせるように、こまめな水分補給を促したり、個々の排尿間隔に合わせてオムツ交換を行う。
- 連休明けは疲れが出やすいため、日中の様子を夕方の職員に伝え、体調の変化に留意する。
- 保護者への伝達事項は、メモやノートを活用して確実に引き継ぎを行い、伝え漏れを防ぐ。

自己評価

- 子どもが気持ちをのびのび表現できていたか。
- 食事の際には意欲的に食べ、時にはスプーンを使ってみようとしていたか。
- 友達や保育者と触れ合うことを喜び、楽しんでいたか。
- 戸外で自然に触れて遊ぶことができたか。
- 衣類の着脱に興味を持ち、自分でやってみようとする姿が見られたか。
- 簡単な言葉を発することを楽しんでいたか。
- 安心して眠ることができていたか。
- トイレに行こうとする姿が見られるようになったか。
- 連休明けの生活リズムに寄り添い、少しずつ園でのリズムを整えられたか。
- 体調の変化に留意しながら、心地よく過ごせる環境作りや早期対応に努めたか。
- 子どもの思いを受け止め、一対一で触れ合う中で心の安定を図ったか。
- 好きな遊びを見つけ、遊ぶことを楽しめていたか。
- 一人ひとりの運動発達に合った働きかけを持ち、体を動かすことを楽しめていたか。
- 手遊びや歌、体操等、体で表現することを楽しめていたか。
- クラス懇親会では保護者同士の交流の場を設けられたか。
- 日々の生活を具体的に伝え、保護者の安心感に繋がったか。

ほいくのおまもり Plus!

文例ご利用時の注意事項

- 提供される文例は、一般的なケースを想定して作成されています。ご自身の具体的な状況やニーズに合わせて適宜修正を加えてご利用ください。
- 文例の利用によって生じたいかなる結果についても、当サービスは責任を負いかねます。自己責任においてご使用ください。
- 文例は参考としてのみご利用いただき、直接のコピー＆ペーストではなく、ご自身の言葉で表現を加えることをお勧めします。
- 法的な文書や重要な契約に関する文面は、専門家のアドバイスを受けて作成することをお勧めします。
- 文例の著作権は当サービスに帰属しています。無断での再配布や商用利用はご遠慮ください。

ほいくのおまもりプラス・トップページ

